

## 再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名	一般国道461号 <small>おくざわ</small> 奥沢バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県大田原市上奥沢 至：栃木県大田原市南金丸	延長	3.0 km		
事業概要	一般国道461号は、栃木県今市市を起点とし、本県北部を横断し、茨城県高萩市に至る幹線道路である。また、広域的な交流や連携強化を支援するとともに、県北東部地域から東北縦貫自動車道国道4号への強化を図り、沿線の生活や経済を支える重要な路線でもある。本事業区間は、幅員狭小で歩道未設置区間も多く、車両の円滑な交通及び歩行者や自転車の安全確保が課題となっている。奥沢バイパスは、安全で円滑な交通を確保し、県北部地域の経済・産業活動の支援を目的とした延長3.0 kmの4車線（暫定2車整備）の道路である。				
H8年度事業化	都市計画決定なし	H9年度用地着手	H14年度工事着手		
全体事業費	31億円	事業進捗率	85%	供用済延長	1.5 km
計画交通量	20,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 2.3 (残事業) 12.5	総費用：(残事業)/(事業全体) 7/36億円 (事業費：5/33億円 維持管理費：2/3億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 83/84億円 (走行時間短縮便益：80/81億円 走行費用減少便益：3/3億円 交通事故減少便益：0/0億円)	基準年： 平成17年	
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（東北新幹線那須塩原駅へのアクセス向上） ・個性ある地域の形成（栃木県北部地方拠点都市地域開発の支援）				他9項目に該当
関係する地方公共団体等の意見	奥沢バイパスは、通過車両の円滑な交通、地域交流の促進等に重要な役割を果たすことが期待されており、地元大田原市より早期整備要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	特になし				
事業の進捗状況、残事業の内容等	終点側の現道拡幅部の約0.5 kmを平成16年4月に供用し、起点側から国際医療福祉大学までの約1.0 kmを平成18年1月に供用を図ったところである。残る約1.5 kmの区間については、用地取得を推進している。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残る約1.5 kmの区間において、関係相続人9名の相続未了の土地があり、相続手続きにおける配分割合の合意が得られないことによる。今後は、任意交渉を進めるとともに、収用の手続きも進め、早期供用に努める。				
施設の構造や工法の変更等	特になし				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。